



(題字 高田 昴 筆)

発行所／日本産業衛生学会関東地方会事務局・〒260-8670 千葉県千葉市中央区亥鼻 1-8-1
 千葉大学大学院医学研究院環境労働衛生学内・TEL (043) 226-2065・FAX (043) 226-2066・発行責任者／能川 浩司



第78回日本産業衛生学会を終えて

清水英佑 (企画運営委員長)

芝公園の八重桜が満開の2005年4月20日(水)から24日(日)まで、東京プリンスホテルを主会場として第78回日本産業衛生学会が開催された(20日は慈恵医大にて総会、24日は五反田ゆうぼうとにて特別研修会)。櫻井治彦前関東地方会会長が開催して以来6年ぶりである。交通至便な場所ということもあって全国から学術集会には約2600人が、特別研修会には870人が参加した。学会メインテーマに「産業構造の変化と産業保健のあり方」を掲げ、特別講演2題、メインシンポジウムと6題のシンポジウムおよび市民公開シンポジウム、パネルディスカッション2題、ワークショップ1題、教育講演7題、フォーラム4題、一般演題535題(口演281題、ポスター発表254題)、その他、5委員会、30自由集会、10の各種幹事会・世話人会・総会等、地域交流会、研修会、産業医プロフェッショナルコース、ランチョンセミナー7題とイブニングセミナー1題が開催され、また例年のことながら、機器・書籍展示等も併催された。さらに、託児施設も用意し、延べ16人の乳幼児を受け入れた。

特別講演では、北城格太郎氏(経済同友会代表幹事・日本IBM会長)が、「産業界からの産業保健職への期待－健全で明るく活力ある職場環境の実現に向けて」と題して、経営者の立場から講演下さった。これを受けてメインシンポジウムはメインテーマと同一名で開催され、清水英佑(慈恵医大)からは経済状

況の変遷と産業保健の問題について、尾野秀明氏(連合東京副事務局長)から医療職への希望が、石田雅昭氏(産経新聞社総務局長)からはマスコミの利用方法について、浜口伝博氏(日本IBM)は就労状況の変化と産業保健サービスの対応について報告と討議がなされた。その他多くのシンポジウムやパネルディスカッション等でも、今日の産業保健で問題となっていることが取り上げられたが、特に、メンタルヘルス、過重労働、個人情報保護、一般健康診断に対する関心度は高く、どこの会場も立ち見をするほどの盛況であった。

今回の学会は、関東地方会総力を挙げての開催であったが、顧問・企画運営委員・実行委員だけでも100名近い会員のご協力をいただいた。特に財務委員会(相澤好治委員長)、プログラム委員会(角田透委員長)、広報委員会(吉田勝美委員長)、学術委員会(大井田隆委員長)、特別研修会企画委員会(中館俊夫委員長)のご協力なくして今回の学会の成功はなかったものと思われる。また、各会場のお手伝いに教室員・研究室員・所員等の応援をいただくとともに、発表に使用する液晶プロジェクターやノートパソコンに至るまでご提供いただき、大変お世話になった。ご協力くださった方々に、この紙面をお借りして御礼申し上げる次第である。

第78回日本産業衛生学会報告

プログラム委員長を終えて

角田 透(杏林大学医学部衛生学公衆衛生学)



プログラム委員会は20名の委員を抱える大所帯でした(抄録集8ページ参照)。そのため、大会長の清水英佑先生、事務局長の鈴木勇司先生、さらに慈恵医大の医局の先生方には大変なお世話を頂きました。

大所帯であったためか、委員の先生方からは、多くの時宜を得たご提案と活発な議論を頂くことができました。また、いろいろな意見を集約するにも委員の先生方の絶大なるご協力も頂くことができました。時間と手間は掛かりましたが、その甲斐あって内容のあるプログラムを準備できたと思っております。

お世辞かもしれませんが、ご参加の先生方から、お褒め頂いたことをご報告申し上げるとともに、紙面をお借りして、委員の先生方のご支援に厚く御礼申し上げます。

財務委員長を担当して

相澤好治(北里大学医学部衛生学公衆衛生学)



第78回日本産業衛生学会は、ほぼ全日程東京プリンスホテルで行われました。ホテル使用は筆者の知る限り本学会で初めてのことと思います。旧教室員で臨床をしている医師が、「臨床の学会より、勢いがある」と言っていました。

確かにどの会場も参加者の熱気に包まれていました。これもひとえに清水英佑大会長の勇気と指導力によるものと思います。財務委員会の16人は、昨年集まって、募金計画を練って募金候補機関リストを作成し、清水英佑大会長をはじめ委員の知り合いをつてに募金活動をしました。収支決算が出るまでは、楽観できませんが、委員各位のご協力により、何とか義務は果たせたのではないかと感じています。ご尽力頂いた皆様や協力機関に紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

広報委員長を終えて

吉田勝美(聖マリアンナ医科大学予防医学)



第78回日本産業衛生学会が清水英佑大会長のもとに成功裡に終了したことに對し、ご参加頂いた会員の皆様に広報委員会から厚く御礼申し上げます。大会開催時の会場の運営にあたりましては、関東地

方会会員の皆様には受付、会場整理をはじめ多大なご支援を頂き順調に運営できたことを重ねて御礼申し上げます。

当日の会場係にどのように対応するかは本委員会の大きな課題でしたが、外部のイベント業者に委託せず、関東地方会会員の協力を得て運営することを主体にアレンジをしました。関東地方会幹事の先生方を中心に班編成をして対応して頂き、時には興味あるプログラムと会場係との重複が生じたかと懸念しましたが、会員相互の協力でうまく乗り切れたようです。

ご多忙の中、大切な大会において、運営にご協力頂きました先生方に改めて御礼申し上げます。



学術委員長を終えて

大井田隆 (日本大学医学部公衆衛生学)



第78回日本産業衛生学会が清水英佑大会長および鈴木勇司事務局長の御指導のもとで無事終了致しましたことは学術委員長として感謝に堪えません。両先生の熱意に対して衷心より御礼申し上げます。

学術委員会の役割は一般演題を分野ごとに仕分けること、ポスターセッションの演題につきまして優秀なものを選定することでした。優秀な演題を選出することは意外に難しい作業でした。最後の一つを選ぶと言うことは結構考え込んでしまい、なかなかやりにくいことでしたが、学術委員皆様の協力により何とかやり遂げることが出来ました。この場を借りまして御礼申し上げます。



特別研修会企画運営委員長を終えて

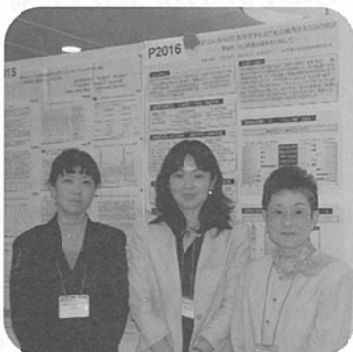
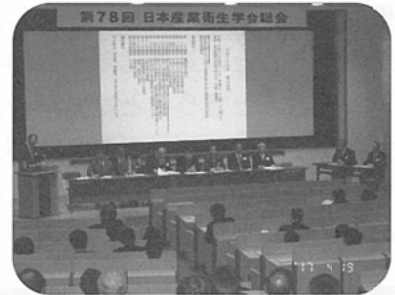
中館俊夫 (昭和大学医学部衛生学)



学会が学術的な発表・討論の場であるのに対して、特別研修会は、第一線で活躍される産業医、産業看護職の方々の実務的な研修の場です。そこで企画にあたっては、現場ですぐ役立つ知識とスキルが

得られる実践的な内容にすること、そして「旬」の題材を幅広く取り上げるようにしました。

また実地研修は、メンタルヘルス、労災二次健康診断、職場巡視、救命救急の4テーマの中から、受講者が自らの希望に合わせて選択できるように配慮しました。定員を超えるご参加をいただきましたのは、講師の先生方、企画委員の方々、そして当日の運営にあられた皆様のご尽力の賜物と、この場をお借りして心から感謝申し上げます。



第228回例会報告

山口直人・加藤登紀子(女子医大)

『産業保健の新しいアプローチ』をメインテーマとして、第228回例会が2005年1月29日(土)、東京女子医科大学にて開催されました。

特別講演「EBM/NBMの最近の知見と産業保健への活用」(斎藤清二氏)ではEBMの利点と限界、これを補償するものとしてのNBM(Narrative Based Medicine)－医療者と患者の親密な対話－の実践の重要性、エビデンスもひとつの物語として相対化するNBMの認識論等が解説されました。

シンポジウムは以下の4題のご講演とした。

「最新のIT技術を活用した新しい産業保健の可能性」(中川晋一氏)では、インターネット動画像伝送技術、ユビキタスネットワーク等の最新の技術動向が総説され、産業保健分野への可能性のある要素技術についても提示された。

「新しい視点に基づいた産業看護活動の展開と育成」(神保恵子氏)では、労使の自主対応を支援できる産業看護職のスキルアップを独自の系統的な教育システムに基づいて行い、特に集団支援スキルの向上を重視し評価にリンクさせていく試みが紹介された。

「分子毒性学的アプローチの可能性」(松岡雅人氏)では、分子・細胞レベルでの化学物質の毒性発現機序の解明や毒性評価が可能となり、有害化学物質取り扱い業務において、より効果的な個人対応健康管理が示唆された。

「産業保健としての自殺予防の取り組み」(廣尚典氏)では、『産業保健スタッフ向け自殺防止マニュアル』が紹介され、自殺の高リスク者の把握、希死念慮に関する質問法やその対処法を、組織的で気軽な職場との交流のなかで展開できることの重要性が述べられた。

演者の先生方、参加された方々(会員124名、女子医大医師会員34名、非会員50名合計208名)、清水地方会長および事務局の諸先生方にこの場を借りてお礼申し上げます。

第229回例会報告

千葉百子(順天堂大)



2005年6月4日(土)12時50分から今年度の総会が行われ、13時25分から第229回例会を順天堂大学有山記念講堂にて開催した。

例会は、第78回大会が4月に開催されたので、一般演題募集をせず、産業医研修会を兼ねる講演会とし、東京都医師会と順天堂医師会の共催とした。

メインテーマは「産業衛生をめぐる最近の話題」で、教育講演は稲葉裕先生(順大)による「産業保健における健康情報の疫学的活用」(座長：清水理事長)とした。

特別講演Ⅰは労働法がご専門の弁護士森眞子先生による「女性労働の現状と健康にもたらす悪影響について」(座長：千葉)とした。

特別講演Ⅱは一時期社会問題となったダイオキシンとその後の対策について小川康恭先生(産医研)による「清掃工場の労働衛生」(座長：能川地方会長)とした。

特別講演Ⅲは福本正勝先生(航空医学研究センター)による「航空身体検査と健康管理」(座長：加地正伸先生、日本航空インターナショナル)とした。航空機が庶民の足となったが、「機長、何をしますか、やめてください」という出来事を知らない若者が増えた今、興味深い講演であった。

予定時刻17時30分きっかりに終了し、参加者(総数286名、うち会員140名)は夕立の街に散っていった。



関東産業医部会活動報告

三好裕司 (明治安田生命)



第78回日本産業衛生学会産業医フォーラム

「生活習慣病と労働」

産業医部会は2003年から生活習慣病に関連したフォーラムを開催していました。生活習慣病を個人責任だけに帰すことなく、

長時間労働などの労働要因を考慮することも重要であるとの観点から、「生活習慣病と労働」というテーマで生活習慣病関連企画の集大成としました。

「過労死」という言葉の生みの親ともいえる上畑鉄之丞先生の「生活習慣病と作業関連疾患は別々の概念としてではなく、互換性をもったものとして考える必要がある」との迫力ある提言を受け、問診票管理システムや健診直前セミナーなど、小柳敦子氏、森口次郎氏、広瀬俊雄氏らのユニークな生活習慣病対策が報告されました。

会場からは、健康を楽しむという意識で健康づくりを行なえないか、働くことによって健康になるという前向きの考え方ができないかといった、考えさせられる意見がありました。

第78回日本産業衛生学会特別研修会

「安全配慮と就業上の措置(制限)」

特別研修会は、実地、更新も含め5単位の研修単位が得られる効率的な研修会です。今年度から、大会開催地の産業医部会幹事が産業医活動の実践に即した講演を行なうこととなり、筆者が「安全配慮と就業上の措置(制限)」というテーマでお話しました。

産業医の職務は本当に多様で、中でも健康診断や過重労働関係の業務は産業医業務の花形といえるでしょう。休業や職場復帰、就業の軽減などの就業上の措置は事業者が安全(健康)配慮義務を果たすための必須事項であり、産業医の手腕の見せ所ではないでしょうか。参加者に満足していただいたものと思います。

関東産業看護部会活動報告 産業看護フォーラム

神保恵子 (NTT 東日本)



4月21日(木)に「自主対応型の産業保健における看護職のめざすものはなにか」というテーマの下、産業看護フォーラムが行われた。この企画は、前年度名古屋でのフォーラム「産業看護職は働く人々の健康にいか

に貢献できるか」に引き続き産業看護の役割を考えるものであり、近年の産業保健の潮流である“自主対応型の産業保健”の意味を再確認したうえで日頃の産業看護活動の位置づけを明確にしていく目的で選ばれたテーマである。

定員 440 名の会場はほぼ埋まり、自主対応型の産業保健と看護職の役割についての河野啓子氏の講演に続いて事例報告がされた。

住友金属工業の栗岡住子氏からは人事・労働企画室所属として企画立案に関わりながら、産業保健専門職として安全衛生委員会活動や施策展開に対しファシリテーターとして機能し、看護専門職としては施策実行のイニシエーターとして自主対応を支援している状況が紹介された。

工場の生産ラインの健康管理センタースタッフとして働いている旭硝子の立花由紀氏からは、労働安全衛生マネジメントシステムに組み込まれた健康管理活動についての報告があり、その経過と実際の展開について説明がなされた。

パナソニックモバイルコミュニケーションズの岡本里佳氏は健康保険組合所属の立場から施策展開の上でイニシエーター、プロモーターとして工夫している実際を話された。

会場からの質問は主に実際の施策展開に集中しており、オーガナイザーとしての活動も含めた自主対応における看護職の役割について深めるまでには到らなかったきらいはあった。しかし3時間にわたり産業看護職が一堂に会しこのテーマについて考えることができたのは、これからの日々の活動の意味づけを考えていく上で意義があったのではないかと思われる。

関東産業衛生技術部会活動報告 第1回産業技術研修会

清野敦子(労研)

産衛学会期間中の4月20日(水)(10:00~14:30)、慈恵医大の講堂で、産業衛生技術部会による研修会が約50名の参加で行われた。

テキスト『産業衛生技術入門』(中災防)を用いた第1回産業技術研修会であり、4名の演者による、産業衛生技術において重要な分野である人間工学、化学物質の影響、産業心理学、メンタルヘルスについての概論と、各分野における最先端の研究事例の発表であった。

岸田孝弥先生(高崎経済大)による「人間工学入門」では、人間工学の概論と、人間工学に基づく実際の作業現場における応用方法として、作業条件チェックリストやグループ会議などで職場を改善していくKAIZENについて紹介された。

那須民江先生(名大)による「毒性学入門」では、毒性学の概論として、毒性学はトキシコキネティクス(化学物質の生体内における動態)と、トキシコダイナミクス(毒性メカニズムの解明)の二つの研究により成り立ち、労働衛生における有害化学物質のリスク評価に必要な知見を得るために重要な科学であることが説明された。また、現在演者らが取り組んでいるアルコール性肝障害のメカニズムにおけるPPAR α の機能解析についても研究も紹介された。

北島茂樹先生(産医大)による「産業心理学入門」では、産業心理学とは産業組織における心理と社会の諸過程を探求し、その改善の知見を得るための科学であることが説明された。また、職場におけるヒューマンファクターの重要性について検討事例が説明された。

長見まき子先生(関西福祉大)による「メンタルヘルス入門」では、労働衛生のメンタルヘルス分野で最も遅れているのは職場環境等の改善であるとし、その対策として、職場環境改善のためのヒント集を用いた検討事例が紹介された。

理事会報告より

清水英佑(慈恵医大)

2005年3月19日(土)および6月11日(土)開催

1. 平成16年度事業報告・収支決算見込み、平成17年度事業計画・収支予算の各案が承認された。厚生労働省の指導により地方会決算も本部決算と合算することになった。
2. 理事長候補選挙結果について角田透中央選挙管理委員より清水英佑理事が選出されたとの報告があった。
3. 編集委員会の作業が増えたため定員を30人にすることが認められ、委員会規程も変更することになった。
4. 第15回産業医・産業看護全国協議会は2005年10月14日(金)・15日(土)に広島で開催する(宇土企画運営委員長)。
5. 第16回産業医・産業看護全国協議会は2006年9月23日(土)・24日(日)に新潟朱鷺メッセで開催する(松原企画運営委員長)。
6. 第79回日本産業衛生学会は2006年5月9日(火)~13日(土)に仙台国際センターで開催する(佐藤企画運営委員長)。
7. 第80回日本産業衛生学会は2007年4月24日(火)~28日(土)に大阪国際会議場で開催する(圓藤企画運営委員長)。
8. 関東地方会会長に能川浩二理事が、中国地方会会長に芳原達也理事が就任した。
9. 看護部会規程類について定款との整合性を取る。その他の規程類も見直しをする。
10. 労働衛生関連制度検討委員会では中明賢二委員から野原誠一郎委員に交代した。
11. 当学会の「個人情報保護管理規程(案)」について能川担当理事に検討をお願いした。
12. 産業保健指導医講習会は本年度も実施する。
13. 作業環境測定検討委員会報告書を機関紙に掲載し会員の意見を聞くと共に、その結果を踏まえて行政に提案していくことにした。
14. 職域における喫煙対策研究会世話人が阿部眞弓氏に交代した。
15. 有機溶剤中毒研究会世話人が那須民江氏に交代した。

幹事会報告より

鈴木勇司(慈恵医大)
諏訪園靖(千葉大学大学院)
宮本俊明(新日鐵君津)

1. 清水英佑地方会長(東京慈恵会医科大学)が理事長に就任したために地方会長を辞任した。
2. 能川浩二氏(千葉大学大学院)が選挙の結果、新地方会長に就任した。
3. 宇佐見隆廣幹事、伊藤昭好幹事、新津谷真人幹事、平田衛幹事の辞任が承認された。
4. 武藤孝司氏、香山不二雄氏、佐々木司氏、諏訪園靖氏、角田正史氏、原谷隆史氏が幹事として承認された。
5. 鈴木勇司幹事長・事務局長が辞任し、諏訪園靖氏が幹事長、宮本俊明氏が事務局長に就任した。
6. 地方会幹事・監事は、2005年6月4日(土)で一旦全員が辞任し、改めて委任する。
7. 第230回一泊例会および第49回見学会(鈴木庄亮企画運営委員長、小山洋当番幹事)は、2005年9月9日(金)10日(土)に高崎ビューホテルにて開催予定。見学会(9日)は東邦亜鉛とJR東日本。メインテーマは「職域におけるメンタルヘルスケアと個人情報保護」。
8. 第231回例会(廣尚典幹事)は、2005年12月3日(土)に日本教育会館にて開催予定。
9. 第232回例会(山内博幹事)は、2006年2月18日(土)に川崎市国際交流センターにて開催予定。
10. 関東産業医部会研修会は、産業医部会とジョイントセッションを企画中で日程は未定。
11. 関東産業看護部会産業保健研修会は、2005年10月1日(土)に東京産業保健推進センターにて開催予定。講演は「個人情報保護における課題について」加藤雅治(東京産業保健推進センター相談員)。2005年11月12日(土)同上にて開催予定。講演は「リスクマネジメントとしての記録のあり方について」岡田隆志(リョマホ法律事務所弁護士)。
12. 関東産業衛生技術部会長に田中茂幹事が就任した。研修会は、2005年6月25日(土)に順天堂大学医学部にて開催予定。講演は、「産業衛生技術者の社会への貢献」中明賢二(麻布大学)、「産業衛生技術者とCSR」伊藤昭好(産業医科大学)。
13. 地方会ニュース編集委員は、第12号発行をもって一旦全員が辞任し、改めて委任する。

平成 17 年度総会報告より

宮本俊明(新日鐵君津)

1. 地方会長選挙結果について選挙管理委員会から経緯と結果について説明があり、総会に先立って開催された幹事会で地方会長および事務局の交代が承認されたことが報告された。
2. 退任挨拶(清水英佑前地方会長)および就任挨拶(能川浩二新地方会長)があった。
3. 議長として稲葉裕氏(順天堂大学医学部衛生学)が選出された。
4. 平成16年度事業報告(案)および決算報告(案)が説明され、埋忠洋一監事および和田攻監事による監査結果が報告され、両案が承認された。
5. 平成17年度事業計画(案)および予算(案)が承認された。
6. 第78回日本産業衛生学会開催報告を清水英佑企画運営委員長が行った。

日本産業衛生学会理事長・監事決まる

全国の理事候補者の中から、2名が理事長候補者として立候補したことから、代議員による選挙が行われ、清水英佑氏(東京慈恵会医科大学環境保健医学講座教授)が当選された。2005年4月20日(水)の総会で承認され、理事長に就任された。

監事はこれまで長年努めてこられた高田昂氏(北里大学名誉教授)が、この度勇退された。選挙の結果、大本美彌子氏(元東邦大学医学部教授)が再選され、徳永力雄氏(関西医科大学名誉教授)が新たに就任された。

日本産業衛生学会 関東地方会長選挙結果のお知らせ

関東地方会選挙管理委員会委員長 山口直人

清水英佑氏が理事長候補者に選出されたことを受けて関東地方会長を辞任し、これを受けて関東地方会選挙管理委員会は、社団法人日本産業衛生学会定款第42条、地方会長選挙規程、関東地方会細則および関東地方会選挙細則に基づき地方会長選挙を行った。その結果下記の会員が当選した。

記

地方会長名：能川浩二(千葉大学大学院医学研究院環境医学講座環境労働衛生学)

通達・行政ニュース

工藤光弘(中災防)

厚生労働省安全衛生部長小田清一氏講演より
(安全健康快適フェア—安全衛生総合展2005—、
2005年5月18日(水)、東京ビッグサイト)

最近の重大災害(一度に3人以上負傷者)の発生状況は、平成16年度274件、平成15年度の脳・心臓疾患の労災認定件数は312人、精神障害等の労災認定件数は108人、労働者の自殺者は9209人である。このような背景から(1)労働災害の一層の低減にむけた対策の充実、(2)過重労働・メンタルヘルス対策の充実を考慮した労働安全衛生法等の改正を考えている。

(1)は、設備・作業の危険要因のリスク評価、労働安全衛生マネジメントシステム、発注者等による危険有害情報の提供、化学物質の表示・文書交付制度の改善等である。(2)は、リスクの高い労働者(月100時間以上の時間外労働者)の医師による面接指導の実施である。医師に対しては、面接指導マニュアルの作成、研修の実施等の支援活動を行うこととしている。

2005年7月1日からは石綿障害予防規則が施行される。また、結核予防法改正(2005年4月1日施行)を踏まえ、安衛法の定期健診としての胸部X線検査についても専門家検討会を設置し、検討をしている。

ありがとうございました

地方会長 能川浩二

平成17年7月付けで改めて関東地方会幹事・監事の任命をさせていただきました。その結果、平成14年4月より平成17年6月までの間、関東地方会選出理事、地方会幹事および監事で、以下の方々が退任されました。地方会発展のためご尽力下さりありがとうございました。ここにお名前を掲載し、御礼とさせていただきます。

関東地方会選出理事

小木和孝、中明賢二、野崎貞彦

地方会幹事

市川正明、伊藤昭好、伊藤岩美、宇佐見隆廣、内田健夫、大久保靖司、大道正義、沖野哲郎、加地正伸、柏崎研、近藤正樹、新津谷真人、平田衛、森晃爾、八上享司、横山和仁

地方会監事

埋忠洋一、和田攻 (敬称略)

産業保健実践活動報告(第11回)

イントラネットを利用した健康支援活動

一木ひとみ(富士通川崎病院健康推進部)



IT企業内で働く従業員への健康支援活動の取り組みとして、当社ではイントラネットを使用し①禁煙支援教育『禁煙マラソン』②運動推進教育『なかはら WALKERS』を実施している。これらの教育は、従業員が自席にて

自分の関心のあるテーマについて参加した仲間と共に目的を達成できる内容になっている。

①『禁煙マラソン』は1999年から実施しており、毎年5月31日の「世界禁煙デー」にちなんで、禁煙希望者に対し、事前準備期間2週間・禁煙期間3ヶ月間を設定し、Eメールを使って参加者に禁煙にまつわる具体的な方法を20回メールにて配信し、禁煙に対する意識を高めている。また、参加者が自由に意見交換をし、スタッフが励ましや相談に即座に対応できる場をHP上に「ランナーの部屋」を設定し、コミュニケーションを深めている。必要に応じて個別面談もとり入れ支援を強化している。

今年で7年目を迎え年平均34名の参加希望があり、3ヶ月間の平均禁煙率は62.7%である。

②『なかはら WALKERS』は運動習慣のない従業員に対し、一次予防の観点で2001年より実施している。3ヶ月間、1日一万歩を目指し、ネット上にて仮想“東海道五十三次”を歩くシステムである。参加者は自分のハンドルネームをエントリーし、毎日歩いた歩数を自席にて入力する。それと同時に自分自身のランキングが表示され、ウォーキングへのモチベーションが高まる仕組みである。これらのイントラネットによる支援方法のメリットは、自席にて簡便に参加できる点にあると思われる。このような取り組みが、社員の健康意識を高め、健康の保持増進につながる一助になるように今後も工夫を重ねて行きたいと考えている。

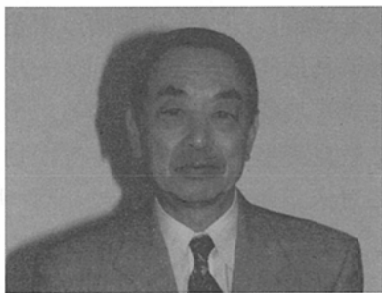
3部会フリーページ

産業衛生技術フォーラム(第11回産業衛生技術部会大会 2005年4月21日)開催報告

標記フォーラムは第78回日本産業衛生学会の企画の一つとして「組織の社会的責任と産業衛生技術者の役割」をメインテーマに開催されました。関東産業衛生技術部会を中心に企画したもので、ねらいは、「企業の社会的責任(CSR)は現場の安全衛生にとって追い風となるか?」「組織が社会的責任を果たすために、構成員の一員として産業衛生技術者は何をなすべきか?」「産業衛生技術者に求められる資質とは何か?」といった点を討議して明らかにすることにおかれていました。

まず3名の演者から話題提供があり、全体討議へと進みました。

一番手は坂清次先生(三菱総合研究所)で、「企業の社会的責任と技術者倫理」の演題のもと、連続する不祥事、大規模事故や災害を例にひきながら、最近の企業活動をめぐる世界的な動向の中で、CSR(企業の社会的責任)とそれに応じたSRI(社会的責任投資)が注目されている点を紹介され、CSRがブームの様相を示しているが、多義多様性を持っているので、むしろ組織の一員である産業衛生技術者が職業倫理、技術者倫理をしっかりと果たすことが肝要であることを力説されました。



二番手は山室栄三先生(日本IBM)で、「外資系企業の立場から」の演題のもと、IBMでの社会的責任遂行プログラムや具体的な安全セルフアセスメントの内容を紹介され、安全衛生に携わる技術者各自が自覚を持って社会的責任を果たしていくことが企業と社会を変革していく大きな一歩となることを強調されました。また参考資料として参加者には日本IBMの最新版のCRレポートが配布されました。



最後に原田靖之先生(日本化学工業協会)で、「レスポンシブル・ケアとリスクアセスメント」の演題のもと、リスクアセスメントの強力なツールとして開発されたRisk Managerを紹介され、これを道具としてきちんと使いこなすためには高い能力を持った産業衛生技術者が求められるので、そのための人材育成が急務であることを述べられました。



全体討議では、産業衛生技術者の責任が取り上げられている一方で、その権限が十分与えられていないのではないかといった疑問や、技術伝承のために記録をきちんと残していく、それがコミュニケーションに役立つといった意見、また現場の良好事例を収集・整理して水平展開をはかることこそが産業衛生技術者に求められているという指摘など様々な視点からの発言が出されました。フォーラムとして一つの合意に達したわけではありませんが、これから始める議論の出発点として位置づけられたものと考えられました。

なお各演者の方々のプレゼンテーションで用いられたスライドのうち、掲載許可をいただいたものを産業衛生技術部会のホームページ(<http://plaza.umin.ac.jp/%7Ejsoh-ohe/>)からダウンロードすることが可能です。是非、日本のハイジニストの将来のために関東産業衛生技術部会宛にご意見をいただければ幸いです。

また当日座長を務めさせていただいた筆者ですが、4月を期に九州地方会へ移りました。長らく関東地方会にお世話になりました。この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

文責：伊藤昭好
現在の勤務先：
産業医科大学
産業保健学部



学会等開催予定

第230回関東地方会例会(一泊)・第49回見学会

日時: 2005年9月9日(金)~10日(土)
会場: 高崎ビューホテル
見学会: 東邦亜鉛(安中)、JR東日本(高崎)
企画運営委員長: 鈴木庄亮
(群馬産業保健推進センター)

当番幹事: 小山洋(群馬大学大学院医学系研究科)

第231回関東地方会例会

日時: 2005年12月3日(土)
会場: 日本教育会館
当番幹事: 廣尚典(アデコ健康支援センター)

第232回関東地方会例会

日時: 2006年2月18日(土)
会場: 川崎市国際交流センター
当番幹事: 山内博(聖マリアンナ医科大学予防医学)

関東産業看護部会第6回産業保健研修会

日時: 2005年10月1日(土) 13:30~16:00
会場: 東京産業保健推進センター
主催: 産業看護部会

関東産業看護部会第7回産業保健研修会

日時: 2005年11月12日(土) 13:30~16:00
会場: 東京産業保健推進センター
主催: 産業看護部会

第15回日本産業衛生学会産業医・産業看護全国協議会

日時: 2005年10月13日(木)~15日(土)
会場: アステールプラザ(広島)ほか
企画運営委員長: 宇土博(広島文教女子大学)

第12回産業衛生技術部会大会

日時: 2005年10月26日(水)
会場: 広島県立広島産業会館
実行委員長: 田口豊郁
(川崎医療福祉大医療福祉学部)

第39回中小企業安全衛生研究会全国集会

日時: 2005年12月10日(土)
会場: 福岡県医師会館
代表世話人: 平田衛(産業医学総合研究所)

第64回全国産業安全衛生大会

日時: 2005年10月26日(水)~28日(金)
会場: 広島県立総合体育館
主催: 中央労働災害防止協会

第53回日本職業・災害医学会

日時: 2005年11月23日(水)~24日(木)
会場: 大阪国際会議場
会長: 早川徹(関西労災病院院長)

第13回国際産業保健サービスに関する学会

日時: 2005年12月1日(木)~3日(土)
会場: 栃木県総合文化センター
会長: 武藤孝司(獨協医科大学公衆衛生学教授)

第13回日本産業ストレス学会

日時: 2006年1月12日(木)~14日(土)
会場: 早稲田大学国際会議場
会長: 原谷隆史(産業医学総合研究所主任研究官)

おめでとうございます

厚生労働大臣功労賞

清水英佑 先生 (東京慈恵会医科大学環境保健医学講座教授)

厚生労働大臣功績賞

沖野哲郎 先生 (前埼玉産業保健推進センター所長、三菱マテリアル桶川製作所診療所長、本紙編集委員)

本吉光隆 先生 (千葉県医師会理事(産業保健担当)、医療法人養真会上総記念病院理事長・院長)

編集後記

猛暑到来の季節となった。今年はどうしたことか些か早い6月の末に到来し、暑い暑いのが街中の挨拶言葉となってしまった。梅雨空のもとに咲く可憐な花の風情も欠落したかのようであった。

さて、本紙も会員皆様からのご協力を賜り、編集作業も順調に進捗し第12号をお届けすることとなりました。本号の軸は、先に開催されました総会の特集号として位置づけたことです。編集委員全員が分担し撮影した学会場の一こま写真は多数におよびました。その中から記録として価値ある一こまをいくつか抽出し、掲載いたしました。結びとしまして、編集委員会では本紙に対するご意見、ご感想、ご提案を熱烈に歓迎しております。(伊藤岩美)

清水前地方会長が始められた関東地方会ニュースの委員の末席に加えていただき、編集に携わってきました。その編集委員会では日本語を吟味することを厳しく鍛えていただいたように思います。今号から編集委員は一部交代となり、能川地方会長の下、新体制で地方会ニュースを発行することとなります。会員の皆様方におかれましては、今後とも本紙への変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。(大久保靖司)

編集委員名簿

◎伊藤岩美、稲垣弘文、今井常彦、宇佐見隆廣、○大久保靖司、沖野哲郎、川名ヤヨ子、小峰慎吾、田中三千代、原美佳子、久内徹、廣尚典、榎元武、三浦善憲、◇宮越雄一、宮本俊明、森田美保子、山野優子

◎編集委員長、○副編集委員長、◇事務局

有毒ガス/放射線 検知のエキスパート

トキシ・レイPID 有機溶剤暴露量(VOC^注)ガスモニタ



簡単、軽量(180g)/5秒応答 2,000ppm
 フル充電長時間動作
 VOC値時系列変化をリアルタイム測定
 参照 産業衛生学会誌第47巻 P3063/65

注 VOC=Volatile Organic Compound (揮発性有機化合物の略称)

トキシ・レイ II エコ・タイプシングルガスモニタ



環境に優しい設計(使捨て/継続選択可)
 小型、軽量(102g) 高速応答
 ppm, peak, TWA, STEL 表示
 11種センサ対応(H₂S, CO, NH₃, Cl₂, PH₃,
 NO, ClO₂, HCN, NO₂, O₂, SO₂)

エントリー・レイ 有毒ガス複合モニタ



密閉空間での安全作業 簡単、軽量(567g)
 IP-55対応 ガス値連続変化をリアルタイム測定
 5種センサ標準搭載 (O₂, LEL, CO, H₂S, VOC)

ガンマ・レイ II 個人用ガンマ線線量計



簡単操作、軽量(240g) アルカリ電池
 校正不要

製造元



RAE Systems Inc. 東京オフィス
 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1
 プラザ御茶ノ水ビル403
 Tel: 03-5283-3268 Fax: 03-5383-3275
 URL: <http://www.raetokyo.com>

販売代理店



アイ・ティ・エス株式会社 東京オフィス
 〒111-0034 東京都台東区雷門2-7-8
 NYKビル402
 Tel/Fax: 03-3847-3220
 URL: <http://www.ids-env.co.jp>

第78回日本産業衛生学会に出展致しました。

お蔭様をもちまして23大学・28企業の先生方に

現在、モニターとしてご利用を頂いております。

無償貸与**モニター募集中！先着20名様** 1大学・事業所2名まで
複数台必要の方には特別割引いたします。

貸出用デモ機も有りますので、ご用命ください。

手書きダイレクト for パワーポイント

★PC画面上から専用ペンを使った手書き入力が可能。

★スライドショーのページ送り・戻し等の操作も専用ペンで簡単！

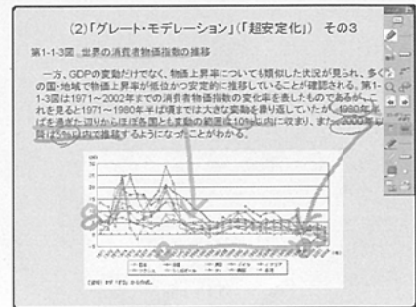
★作成したプレゼン資料に蛍光ペンやマーカーで部分強調。

★手書き入力した内容はそのまま保存して活用できます。



パワーポイントのスライドショーに、**蛍光ペンで強調したりマーカーで注釈を書き込んで保存・印刷することが可能です。**

また、ページ送り・戻しなどの簡単な操作もできます。
プロジェクター等を使用した商談や会議にご活用いただければ、
より直感的でわかりやすいプレゼンテーションが実現できます。



▲スライドショーへの書き込み・保存が可能

for Windows 98SE/ME/2000/XP 対応・USB 専用



共通価格 **36,750円**
(税抜き 35,000円)

- 12.1インチディスプレイ版 品番 ATDT 12 (幅 約 246×高さ 184mm)
- 14.1インチディスプレイ版 品番 ATDT 14 (幅 約 286×高さ 215mm)
- 15インチディスプレイ版 品番 ATDT 15 (幅 約 305×高さ 228mm)

パッケージ内容

- クリア保護ボード
- 専用ボールペン (専用スタイラス)
- 専用 CD-ROM
- ユーザーズガイド
- 保証書

お問い合わせ・お申し込みは

株式会社 昭好 (しょうこう)
埼玉県八潮市緑町 1-3-7

フリーダイヤル

まるでくろーなし
0120-096740

歩くのむ、
また歩く。

MEET
YOUR
DELIGHT **JT**



新発売



歩くと、よくわかる。ウォーキン